

CLOSE UP 中学

最後までやり抜こうとする 子どもたちの気持ちを大切にしたい

金城学院中学校・高等学校での教師生活が長い池田先生は、いつも明るく前向き。その姿勢は、在校生のみならず、卒業生からも厚い信頼を得ていますが、ご自身はどんな考えを持っていらっしゃるのでしょうか。池田先生をクローズアップしてみました。



金城学院中学校
池田明美 教諭

國學院大學文学部文学科 国語学専攻卒業
埼玉県立所沢商業高校教諭ののち、
金城学院中学校・高等学校教諭に赴任

生徒の可能性を信じる

金城学院中学校・高等学校に私が赴任したのは1975年。それ以来、異動で中学と高校を行き来しています。おのずと生徒たちとは長い期間付き合っていくこととなりますが、人生で最も多感な時期を共に過ごせることは、教師として幸せであり、恵まれているとも思います。そう思えるのは、生徒たちの成長する姿を見られることが大きいですね。

確かに心を開いてもらうことは、簡単なことではないですし、反発してくる子もいます。しかし、それらはすべて成長の一過程だと私は思っています。問題を起こすということは、生来持っているものというより

は、取り巻く環境に悩んでいるからだと思うんです。ですから、表向きは叱ったりもしますが、本気で反発されればされるほど、悩みの深さを思わずにはられません。

そうした悩み多き時期を乗り越えて、生徒たちは成長していきます。その中で願うのは、自分で自分を発展させることができる力を持ってほしいということ。そこには「私がこう教えたから、こうなってほしい」という型にはめるような思いはありません。それぞれが持っている力で発展していつてほしいですね。

そのためには「この程度しかできないだろう」「こんなことはできないだろう」というような限界を教師が決めるのではなく、生徒の可能性を信じること。それが子どもたちと真

摯に向き合うことにもなると私は思っています。

読み書きのレベルアップに努める

私は国語の教師として、また分掌の配属としては図書課にいますので、国語と図書に関することは（私個人ではなく教師が連携し、学校全体で取り組むものではありません）“中心の仕事”だと思って取り組んでいます。

その中で、ずっと力を入れているのが読み書きのレベルアップ。正確な文章を書くためには、なるべく早い段階から「漢字の読み書き」が必要ですので、日頃から漢字を覚える習慣づけをしています。また、「分かりやすい文章を書く」、「確かな読み書きをする」ためには、良い文章を多く読み、頭の中に蓄えておくことが欠かせません。そこで良い教材となるのは新聞です。分かりやすく、簡潔にまとめられている文章ばかりなので、それらを読んで、感想文を書いてもらいます。

「読書の推進」に力を入れていることも同様です。学校レベルで読書の質の向上を図るため、各学年に課題図書を設定し、感想文を書いてもらいます。この取り組みは特に、書くべきテーマを絞り、関連資料としての本の検索ができる良い訓練にもなるようなアイデアを盛り込んでいます。

さらに、先人の知恵を得ることができるよう、図書館の活用にも力を入れています。そのためにも、図書委員会から活性化していこうと、

委員の生徒たちには読書会を開いたり、他校の図書館を訪問したり、紙芝居づくりなどを体験させています。学校全体でも、年に一度行われる読書週間で、名作からノンフィクションまで幅広いジャンルの本を読んでもらっています。

こうした多様な取り組みにより、生徒たちの読み書きには成長の跡がみられます。文部科学省認定の「日本漢字能力検定」で、これまで中学校が数々の表彰を受けているだけでなく、修学旅行についての文集を作った際、素直でいい文章が多くみられたこともそうです。「読みにくい文章が減った」という先生方の声も聞かれるようになり、これからも引き続き取り組んでいきたいと思っています。

クリスチャンの立場で生徒を見る

金城学院はキリスト教主義の学校であり、私もクリスチャンなのですが、生徒は神から託されたものとして受け止めています。

多感な時期に本を読み、体験も交えながら読み書きのレベルアップを目指しているのも、生徒たちには精



図書委員会で他校の図書館を訪問(右上が池田先生)

神的に自立した女性になってほしい、と願っているからにはほかなりません。

最後まで何かをやり抜くには、諦めない気持ちや、苦難に負けない忍耐がどうしても必要です。そんなとき、自分で思ったことは力になると私は考えています。思ったとおりにはやるには責任が伴います。周囲の反対も出てきます。それでも、子どもたちが思ったことなら、私は応援

したいのです。それは在校生に限りません。教師として長く在籍していると、私には親子二代を教えている場合もあります。卒業生が私に会いに学校まで来てくれて、受験から恋愛相談までいろいろな話を聞くこともしばしば。嬉しいことだけでなく、辛い話もありますが、乗り越えようと頑張っている姿を見せてくれるのは、教師冥利につきますね。

池田先生はこんな人



池田先生は、いつもポジティブで明るいです。厳しいときもあるけど、それは私たちのために思っていることです。もちろん優しくもあって、昼食パーティを開いてくれるときは特にそれを感じます。

悩んでいて、相談に乗っていただくと、自分のことを思ってくださっているのが伝わります。進路指導で、目標が見つからずに困っていることを話すと、どんな人になりたいか、そのためにはどうすればいいかなど、細かくアドバイスいただけるので、とても頼りにしています。

池田先生を囲んで。
右から神田 沙也加さん 田中 友梨さん 松尾 莉歩さん 山崎 涼さん